

大 分 県

森林環境税の取組み実績

平成25年度の事業概要

農林水産部 森との共生推進室

目 次

森林環境税の概要	1
森林環境税の積立・執行状況	2
平成25年度森林環境税活用事業一覧表	3

I 災害に強く、生物多様性に配慮した森林の整備

1. 荒廃人工林緊急整備事業	4
2. おおいた竹林再生モデル事業	7
3. 沿道景観保全活用促進事業	10
4. 森林シカ被害防止対策事業	11
5. おおいた生物多様性保全事業	
(1) 奥山地域植生等調査事業	12
(2) 絶滅危惧種保護活動事業	13
6. 森と海をつなぐ環境保全推進事業	
(1) 上下流住民等による海岸漂着流木処理活動	14
(2) 漁業者等による港湾内の流木処理活動	
※処理が必要な港湾内流木の発生がなかったため事業実績なし	

II 低炭素社会に向けた森林資源の確保と循環利用

1. 再造林促進事業	15
2. 県産竹材利用促進事業	16
3. 大分県竹工芸海外販路開拓事業	18
4. 大分県竹産業振興対策事業	20
5. 国産広葉樹資源利活用促進事業	21
6. 森林経営集約化促進事業	22
7. スギ丸太等海外輸出促進事業	23
8. スギ丸太等内航路貨物輸送トライアル事業	24
9. 地域材活用住宅建設促進事業	25
10. 次世代林業の森林づくり推進事業	26

III 県民参加の輪を広げ、次世代へつなぐ取組

1. 森林づくりボランティア推進事業	27
(森林づくり提案事業一覧表)	30
2. 森林環境教育推進事業	
(1) 森の先生派遣事業	34
(2) 名樹とのふれあい事業	35
(3) 次代の森林づくり活動リーダー育成研修支援事業	36
(4) みんなで「木育」推進事業	37
3. 子育て自然体験促進事業	38
4. 山岳施設整備事業	39
5. 森林環境学習指導者活用事業	40
6. みんなで支える森林づくり推進事業	41
7. おおいたの森林づくり広報推進事業	43
8. 新たな育林技術研究開発事業	44

森 林 環 境 税 の 概 要

1 森林環境税導入の目的

森林環境の保全と、森林を全ての県民で守り育てる意識の醸成のための施策に必要な財源を確保するため、平成18年度から県民税の特例として森林環境税を導入した。

2 森林環境税の概要

- 期 間 税の特例期間：5年
第Ⅰ期：平成18年度～平成22年度
第Ⅱ期：平成23年度～平成27年度
- 税 額 個人…年額 500円
 法人…年額 1,000円～40,000円 （法人県民税（均等割額）の5%）
- 税 収 単年度 約3億2千万円
- 管理・運営 ・徴収した税は「森林環境保全基金」に積立て、他の事業と区別し活用
 ・基金の適正な運用を図るため、第三者機関「大分県森林づくり委員会」を設置し、事業の審査や成果の検証等を実施

3 森林環境税の使途

下記のテーマに沿い、荒廃した森林の整備や、再造林の推進、木材の需要拡大、県民が自ら提案し実行する森林づくりの支援、森林ボランティア活動の推進等の事業を実施

<第Ⅰ期 平成18年度～平成22年度>

テーマ：県民主導、個性豊かな取組、多くの県民が参加する仕組みづくり

- Ⅰ 県民意識の醸成
- Ⅱ 環境を守り災害を防ぐ森林づくり
- Ⅲ 持続的経営が可能な森林づくり
- Ⅳ 遊び、学ぶ森林づくり

<第Ⅱ期 平成23年度～平成27年度>

テーマ：県民生活を守り、地球環境保全につながる森林づくり

- Ⅰ 災害に強く、生物多様性に配慮した森林の整備
- Ⅱ 低炭素社会に向けた森林資源の確保と循環利用
- Ⅲ 県民参加の輪を広げ、次世代へつなぐ取組

4 全国の森林環境税導入状況

大分県は全国で9番目に導入した。平成26年5月現在、35県が導入済み。

森林環境税の積立・執行状況

＜第Ⅰ期＞(H18～H22)

1. 森林環境税の積立状況

(千円)

	H18	H19	H20	H21	H22	合計
基金積立額	200,781	295,120	309,363	306,987	302,495	1,414,746

2. 森林環境税の執行状況

(千円)

区分	年度別実績						
	H18	H19	H20	H21	H22	合計	割合(%)
I 県民意識の醸成	23,264	38,986	41,034	37,477	28,075	168,836	14
II 環境を守り災害を防ぐ森林づくり	77,325	110,919	102,612	137,995	195,344	624,195	51
III 持続的経営が可能な森林づくり	39,740	69,371	78,595	78,595	87,154	353,455	29
IV 遊び学ぶ森林づくり	14,706	23,231	22,150	14,729	11,027	85,843	7
合計	155,035	242,507	244,391	268,796	321,600	1,232,329	100

＜第Ⅱ期＞(H23～H27)

1. 森林環境税の積立状況

(千円)

	H23	H24	H25	H26	H27	合計
基金積立額	304,011	305,745	307,724	—	—	917,480

2. 森林環境税の執行状況

(千円)

区分	年度別実績						
	H23	H24	H25	H26	H27	合計	割合(%)
I 災害に強く生物多様性に配慮した森林の整備	165,192	160,790	133,267	—	—	459,249	46
II 低炭素社会に向けた森林資源の確保と循環利用	151,090	105,251	142,308	—	—	398,649	40
III 県民参加の輪を広げ次世代へつなぐ取組	46,050	45,446	56,115	—	—	147,611	15
合計	362,332	311,487	331,690	—	—	1,005,509	100

＜第Ⅰ期、第Ⅱ期の合計＞

(千円)

	第Ⅰ期	第Ⅱ期	合計
基金積立額	1,414,746	917,480	2,332,226
執行額	1,232,329	1,005,509	2,237,838

※基金積立額は、税收から市町村の徴収に要する経費を引いたもの

平成25年度 森林環境税活用事業一覧表

…新規事業

施策区分		事業区分	事業費 (千円)	担当課室
Ⅰ 災害に強く、 生物多様性に 配慮した森林の 整備	1 荒廃森林の機能 回復	1 荒廃人工林緊急整備事業	26,341	森林整備室
		(1) 災害に強い森林づくり推進事業	21,484	
		①流木被害森林緊急整備事業 (H25～)	18,507	
		②間伐放置林緊急整備事業 (H18～)	2,977	
		(2) 再造林放棄地緊急整備事業 (H18～)	4,857	
	2 荒廃里山林の整 備と利活用	2 おおいた竹林再生モデル事業 (H22～)	29,370	森との共生推進室
		3 沿道景観保全活用促進事業 (H25～)	398	景観・まちづくり室
	3 獣害対策の推進	4 森林シカ被害防止対策事業 (H20～)	74,035	森との共生推進室
		5 おおいた生物多様性保全事業 (H22～)	2,486	生活環境企画課
	4 森・川・海をつな ぐ流域環境の整備	6 森と海をつなぐ環境保全推進事業	637	廃棄物対策課
(1) 上下流住民等による海岸漂着流木処理活動 (H18～)		637		
(2) 漁業者等による港湾内の流木処理活動 (H19～) ※		0	漁業管理課	
計			133,267	
Ⅱ 低炭素社会に 向けた森林資源 の確保と循環利 用	1 健全な人工林資源 の再生	1 再造林促進事業 (H21～)	114,360	森林整備室
	2 未利用資源の有効 利用	2 県産竹材利用促進事業 (H21～)	1,719	工業振興課
		3 大分県竹工芸海外販路開拓事業 (H25～)	3,800	商業・サービス業振興課
		4 竹産業振興対策事業 (H24～)	100	林産振興室
		5 国産広葉樹資源利活用促進事業 (H23～)	5,079	
	3 木材の需要拡大	6 森林経営集約化促進事業 (H23～)	480	林産振興室
		7 スギ丸太等海外輸出促進事業 (H21～)	8,769	
		8 スギ丸太等内航路貨物輸送トライアル事業 (H25)	3,594	
		9 地域材活用住宅建設促進事業 (H24～)	1,949	
		10 次世代林業の森林づくり推進事業 (H23～)	2,458	林務管理課
計			142,308	
Ⅲ 県民参加の輪を 広げ、次世代へ つなぐ取組	1 森林ボランティア 活動の推進	1 森林づくりボランティア活動促進事業	36,475	森との共生推進室
		(1) 森林づくりボランティア支援センター事業 (H18～)	3,333	
		(2) 森林づくりボランティア支援センター施設整備事業 (H25)	12,196	
		(3) 森林ボランティア活動支援事業 (H18～)	680	
		(4) 森林ボランティア技術向上事業 (H18～)	1,913	
		(5) 企業参画の森づくり推進事業 (H19～)	1,428	
		(6) 森林づくり提案事業 (H21～)	16,925	
	2 森林環境教育・ 木育の推進	2 森林環境教育推進事業	5,724	森との共生推進室
		(1) 森の先生派遣事業 (H19～)	3,300	
		(2) 名樹とのふれあい事業 (H25～)	1,310	
		(3) 次代の森林づくり活動リーダー育成研修支援事業 (H25～)	700	
		(4) みんなで「木育」推進事業 (H23～)	414	林産振興室
		3 子育て自然体験促進事業(H25)	1,089	子ども子育て支援課
		4 山岳施設整備事業 (H24～)	2,415	景観・まちづくり室
	3 森林整備への理解と 参加を広げる活動	5 森林環境学習指導者活用事業 (H18～)	893	社会教育課
		6 みんなで支える森林づくり推進事業	3,742	森との共生推進室
		(1) 豊かな国の森づくり大会の開催 (H18～)	2,025	
		(2) 新たな森林づくり推進体制整備事業 (H18～)	1,717	
	4 森林づくりに繋がる 新たな取組の支援	7 おおいたの森林づくり広報推進事業(H18～)	2,107	森との共生推進室
		8 新たな育林技術研究開発事業 (H18～)	3,670	
計			56,115	
合 計			331,690	

※処理が必要な港湾内流木の発生がなかったため事業実績なし

I - 1 荒廃人工林緊急整備事業

事業費 63,726千円（うち森林環境税 56,492千円）

【森林整備室】

1 実施主体

8 森林組合、5 市町

2 実施事業の概要

（1）目的

長年間伐を実施していない森林（間伐放置林）や伐採後再造林されていない森林（再造林放棄地）および河川沿いの流木発生の危険性の高い森林等の荒廃人工林を対象に森林整備を行い、より効率的に災害発生防止等の公益的機能が発揮できる健全な森林に誘導する。

（2）事業内容

①間伐放置林等緊急整備事業

災害の発生が懸念される間伐放置林等の強度間伐による針広混交林化等

②再造林放棄地緊急整備事業

災害の発生が懸念される再造林放棄地の植栽及び下刈りによる自然植生の回復

③流木被害森林緊急整備事業

河川沿いの流木発生の危険性の高い森林を対象とした更新伐・林内整備による自然植生の回復・広葉樹林化

3 成果

①間伐放置林等緊急整備事業

40%の間伐により林内が明るくなり、早期の自然植生侵入により針広混交林化を促進し、表土の流出を抑えることで、公益的機能を高めることができた。

年度	H23	H24	H25	H26	H27	計
計画	50ha	150ha	25ha	25ha	25ha	275ha
実績	45ha	145ha	13ha	—	—	—

②再造林放棄地緊急整備事業

広葉樹の植栽を行うことにより、早期に災害に強い森林の造成を行った。

<植栽>

年度	H23	H24	H25	H26	H27	計
計画	5ha	5ha	4ha	5ha	5ha	24ha
実績	13ha	3ha	3ha	—	—	—

<下刈>

年度	H23	H24	H25	H26	H27	計
計画	106ha	111ha	72ha	52ha	36ha	377ha
実績	53ha	47ha	34ha	—	—	—

③流木被害森林緊急整備事業

伐採率 40 %以上の更新伐と林内整備を行うことにより、林内が明るくなり自然植生の回復・広葉樹林化が促進された。

<更新伐>

年度	H25	H26	H27	計
計画	81ha	84ha	85ha	250ha
実績	57ha	—	—	—

4 課題及び今後の取組

これまでの取り組みに加え、流木被害森林緊急整備事業の実施市町を増やし、災害に強い森林づくりをさらに推進する。

5 実施状況写真

①間伐放置林等緊急整備事業



②再造林放棄地緊急整備事業



③流木被害森林緊急整備事業



流木発生危険性の高い森林が対象



事業実施前



事業実施後



事業実施状況

I-2 おおいた竹林再生モデル事業

事業費 29,654千円

【森との共生推進室】

1 実施主体 市町村

2 実施事業の概要

(1) 目的

1. 県土の保全と良好な景観を確保するため、主要観光地周辺や幹線道路沿線及び集落周辺の鳥獣害対策が必要な箇所における荒廃竹林の伐竹整備、広葉樹林への転換等を推進する。
2. 竹材、タケノコ生産地として持続的管理が見込める荒廃竹林の再生を推進する。

(2) 事業内容

①広葉樹林化

荒廃竹林を広葉樹林に転換するために必要な伐竹整備、広葉樹植栽、再生竹除去等を実施した。

広葉樹林化実績

(ha)

市町村	H 2 3	H 2 4	H 2 5
大分市	2.12		
由布市	3.44	2.01	1.65
竹田市			0.35
玖珠町	0.67		
日田市	1.85	0.25	
計	8.08	2.26	2.00

【由布 IC 付近（由布市）】



【竹田市円形分水】



②大分空港道路竹林整備

大分空港道路沿線の荒廃竹林について、景観改善の目的で伐竹整備、広葉樹植栽を実施した。

大分空港道路竹林整備実績

	実施主体	面積 (ha)
民有地	杵築市	0.77
県有地	大分県	2.20
計		2.97

【大分空港道路沿線（大分県実施）】



【大分空港道路沿線（杵築市実施）】



③優良竹林化

荒廃竹林を竹材、タケノコ生産林として活用するため、伐竹整備及び作業路の開設を実施した。

【杵築市】



【豊後大野市】



優良竹林化実績

	管理方法 (ha)		計	簡易作業路開設 (m)
	タケノコ生産	竹材生産		
別府市		1.82	1.82	900
杵築市	3.38		3.38	
国東市	2.48		2.48	
日出町	0.44		0.44	250
玖珠町	0.76		0.76	
日田市	1.23		1.23	500
豊後高田市	2.38		2.38	910
宇佐市	0.35		0.35	
臼杵市	1.54	0.68	2.22	
由布市	0.48		0.48	
豊後大野市	1.08	1.15	2.23	224
計	14.12	3.65	17.77	2,784

3 成果

荒廃竹林を整備することで、景観の改善が図られた。また、タケノコ・竹材生産林へと誘導することで、継続した竹林の維持管理ができ、竹材・タケノコの生産振興が図られた。

4 課題及び今後の取組

平成26年度以降はこれまでの取組に加え、幹線道路沿線の景観改善のための竹林整備を推進する。

I－3 沿道景観保全活用促進事業

事業費 593 千円（うち森林環境税 198 千円）

【景観・まちづくり室】

1 実施主体

由布市、九重町

2 実施事業の概要

(1) 目的

恵まれた自然環境と人々の営為により創出され保全されてきた大分県の景観資源を有効活用し、観光振興、地域活力の再生に取り組む。

(2) 事業内容

風景街道「九州横断の道やまなみハイウェイ」等の視点場からの眺望を阻害する雑木等を伐採し、沿道景観の再生を図る。

(単位：円)

実施主体	伐採箇所	事業費	(補助金)	補助率
由布市	蛇越展望所	493,500	(329,000)	2／3 (国費 1／3)
九重町	阿蘇眺望	99,750	(66,000)	
計		593,250	(395,000)	

3 成果

- ・展望所等の眺望が当時の状態に再生され、観光客の増加につながった。
- ・景観再生の効果が実証でき、他地域での事業展開の契機となった。

4 課題及び今後の取組

景観支障となる樹木のある土地が民有地の場合に、協力を得られない場合があるので、景観保全の重要性を理解してもらうため、伐採箇所の成功事例を PR する。

5 実施状況写真

＜由布市湯布院町（蛇越展望所）＞



伐採前



伐採後

I - 4 森林シカ被害防止対策事業

事業費 74,035千円
【森との共生推進室】

1 実施事業の概要

(1) 目的

シカによる森林生態系被害が県内各地で発生しており、森林の有する公益的機能の低下が危惧されている。このため、防護資材を設置し、直接的な林木への被害を防止する。また、シカの捕獲報償金事業により捕獲の強化を行いシカの生息頭数を適正な頭数まで減少させ、森林の有する公益的機能の維持増進を図る。



シカの食害を受け盆栽状になったスギ



クヌギ萌芽を食害するシカ

(2) 事業内容

種類		事業量	県費（環境税）（千円）
防護資材等の設置	バークガード	5,170枚	1,209
	防護柵	1,750m	391
シカ捕獲報償金事業		22,026頭	70,407
生産体制強化講習会・大分狩猟肉フェアの開催		6回	1,632
計			73,639

2 成果

防護資材の設置による森林被害の防止と捕獲報償金による捕獲強化によって森林におけるシカ被害対策を推進することができた。また、大分県農林水産祭や東京都のレストラン等において大分狩猟肉フェアを開催し、狩猟によって捕獲した個体の獣肉利活用を促進した。

3 課題及び今後の取組み

(1) 課題

依然として県内のシカの生息密度は適正密度より高い状況にあり、さらなる捕獲の推進が必要である。

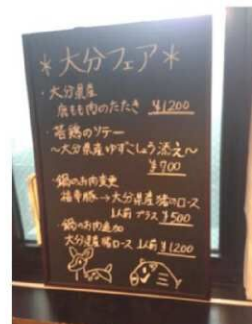
(2) 今後の取組

しいたけ原木伐採後のクヌギ萌芽にシカ被害が発生していることから、防鳥ネットを使用した低コストな防除方法を推奨する。シカの生息頭数を減少させるため、捕獲報償金による捕獲強化に継続して取り組む。

4 実施状況写真



農林祭のブースでジビエ料理をPR



東京の飲食店においてフェアを開催

I-5-(1) おおいた生物多様性保全事業 (奥山地域植生等調査事業)

事業費 1,580千円

【生活環境企画課】

1 実施主体

県（大分県植物研究会に委託）

2 実施事業の概要

(1) 目的

専門家による知見が不足する奥山地域において、ニホンジカによる植生の食害状況等を調査し、希少植物等の保全策を検討する。

(2) 事業内容

- ① 植生等調査
- ② シカ防護柵実証試験
- ③ 報告書作成

3 成果

平成25年度は津江山系県立自然公園において、ニホンジカの食害状況を含む植生の現況を調査し、食害の程度や植生変化の確認を行った。

また、過去に調査した祖母傾国定公園及び耶馬日田英彦山国定公園内に試験的に設置したシカ防護柵内のモニタリングを通じて、ニホンジカによる食害や植生に与える影響を検証した。

4 課題及び今後の取組

引き続き食害の影響とその対策を検討するために、現に食害の見られる区域におけるシカ防護柵設置後のモニタリングを実施する。

5 実施状況写真

シカの角研ぎによる被害



シカの採食状況調査



I-5-(2) おおいた生物多様性保全事業 (絶滅危惧種保護活動事業)

事業費 906千円

【生活環境企画課】

1 実施主体

県（特定非営利活動法人グリーンインストラクターおおいた及び九重・飯田高原観光協会に委託）

2 実施事業の概要

(1) 目的

絶滅のおそれのある野生動植物の保護措置をNPO等に委託し、当該団体の活動を支援することで、NPO・地元・行政が協働して行う保護活動が地域に根付き、継続・拡大していくことを目指す。

(2) 事業内容

- ①ヒメユリの保護活動（特定非営利活動法人グリーンインストラクターおおいた）
- ②ミヤマキリシマの保護活動（九重・飯田高原観光協会）

3 成果

- ①ヒメユリの保護を図るため、鹿ネットの設置、下草刈り等を実施した。
- ②ミヤマキリシマの保護を図るため、ミヤマキリシマの成長を阻害する支障木（ノリウツギ・ヤシャブシ等）の伐採を行った。

4 課題及び今後の取組

- (1) 当該委託事業の終了後も、当該委託団体は絶滅危惧種の保護活動を継続していく。
- (2) 平成26年度も公募を行い、絶滅危惧種の保護を十分図ることが出来る団体を選定し、委託を行う。

5 実施状況写真

- ①ヒメユリ保護のためのネットの設置 ②ミヤマキリシマ保護のための支障木の伐採



I - 6 - (1) 森と海をつなぐ環境保全推進事業 (上下流域住民による海岸漂着流木処理活動)

事業費 637千円
【廃棄物対策課】

1 実施主体 地区自治会、NPO等の団体

2 実施事業の概要

(1) 目的

近年、上中流域の荒廃森林などから流出した流木等が大量に海岸に集積して、下流域住民の生活、経済活動の障害となっているが、撤去のための重機作業による回収、流木の切断、処理施設への搬送等に多大な人手と経費が必要であり、下流域住民や市町村だけでの対応は困難になってきている。

このため、地区自治会、NPO等の団体がボランティア活動により海岸の漂着流木等の処理を行う場合に必要な経費の一部を補助するもの。

(2) 事業内容

団 体 名	実 施 日	場 所	参加人数	処理量
NPO法人水辺に遊ぶ会	6月16日～ 平成26年3月9日	中津市 大新田海岸 三百間海岸	1,565	—
杵築市まちピカ運動推進委員会	10月20日	杵築市 守江港海岸	183	約5m ³
地縁団体 梶ヶ浜区	7月20日～7月25日	杵築市 梶ヶ浜海岸	120	約40m ³
NPO法人きらり・つくみ	8月1日～8月31日	津久見市 無垢島海岸	30	—
つな★ばんプロジェクト	6月～ 平成26年2月23日	佐伯市 西浜海岸	273	—
計			2,171	約45m ³

3 成果

平成25年度は、台風も少なく比較的穏やかな気候が続いたため、流木等の処理量は前年度より減少した。(約65m³ → 約22m³)

しかし、ボランティア活動については2,000人以上が参加しており、これまでと同規模で推移している。特に、佐伯市では、当事業を活用し、行政や民間企業と連携したプロジェクト(任意団体が主体)も発足している。

4 課題及び今後の取組

引き続き活用団体の掘り起こしが必要であるため、ごみゼロおおい作戦と連携して取り組んでいく。

また、「森と海をつなぐ」の名のとおり、上流部とのさらなる繋がりが必要である。

5 実施状況写真

NPO法人水辺に遊ぶ会 活動写真



杵築市まちピカ運動推進委員会 活動写真



NPO法人きらり・つくみ 活動写真



梶ヶ浜区 活動写真



つなばんプロジェクト 活動写真



Ⅱ－１ 再造林促進事業

事業費 296,591千円（うち森林環境税 114,360千円）

【森林整備室】

1 実施主体

森林組合、森林所有者等

2 実施事業の概要

（１）目的

木材価格の長期的低迷や森林所有者の高齢化等により、皆伐後の再造林が実施されない箇所が発生している。そこで、低コスト再造林により、造林・間伐等の事業コストを縮減し林業の持続的な経営と植栽による早期の森林復元による公益的機能の回復を図る。

（２）事業内容

伐採後の林業適地において、低コスト再造林(植栽本数1000～2000本/ha(法令による制限は遵守))施業を実施した事業体に対し、森林環境税を活用した助成を行い、森林所有者の負担軽減と確実な人工林の再生を行う。

3 成果

事業を開始した平成22年度以降、再造林面積は増加しており、有効に事業が推進されている。

平成21年度は県下全体でスギ・ヒノキの2,000本/ha以下の植栽割合が44%であったが、平成25年度は79%を占める割合となり、再造林のコスト縮減が図られた。

＜再造林促進事業の計画及び実績＞

年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
計画	400 ha	400 ha	400 ha	400 ha	600 ha
実績	257 ha	342 ha	301 ha	484 ha	— ha

4 課題及び今後の取組

各市町村及び各森林組合を通じて、低コスト再造林施業の普及啓発をさらに進め、再造林放棄地の解消を図る。

5 再造林放棄地と再造林完了地の比較



Ⅱ－２ 県産竹材利用促進事業

事業費 1,720千円

【工業振興課】

1 実施主体

商工労働部工業振興課

2 実施事業の概要

(1) 目的

本県は全国一のマダケ竹材生産地で、それを活かした製竹、竹工芸、竹製品卸販売等の産業が集積しており、「別府竹細工」は経済産業省の伝統的工芸品に指定されている。

県では、竹工芸・訓練支援センターを設置し、製竹業や竹工芸の振興を図ってきたが、生活様式の変化やプラスチック代替品の台頭、安価な輸入品との競合により、竹材や竹工芸品の需要が落ち込み、その結果、竹材生産量も著しく低下し、竹林荒廃にも繋がっている。

そこで、県産竹材の新たな需要開拓に繋げるための人材育成や創業支援によって竹材利用を促進し、竹林の整備に繋げる。

(2) 事業内容

1) 竹材利用技術者の養成

- ・外部講師を招いて、竹材利用技術や商品開発手法、経営方法等の習得を目指す。
- ・別府竹製品協同組合や竹産業文化振興連合会と連携し、荒廃竹林の有効活用や竹材利用を目指す人づくりを進める。

講師：伝統工芸士(別府竹製品協同組合)、製竹技術者、バイヤー、産科技センター研究員等

2) 「貸し工房」による竹材利用促進

- ・「貸し工房」で竹材の有効活用や新たな竹製品開発を目指す入居者を対象に、荒廃竹林等の竹材を提供し、その新たな利用促進を探る。

3) 展示会等への出展支援

- ・竹材利用技術者として養成された若手技術者が制作した竹製品や、「貸し工房」を利用する技術者により開発された竹製品等の販路開拓を目指し、展示会出展を支援することにより、竹製品の消費拡大や竹材利用の促進を図る。

3 成果

1) 竹材利用技術者の養成

- ・研修生：6名(男性2名、女性4名)
- ・修了作品展「6人の竹しごと。」展一日時：平成26年3月20～30日、場所：別府市竹細工伝統産業会館、来場者数：約812名

2)「貸し工房」による竹材利用促進

- ・入居者：3名(男性2名、女性1名)
- ・竹林実習一日時:平成25年11月19日、場所:国東市、講師:櫛上竹材 上野山貞男氏
- ・竹材活用提案－8案

3)展示会等への出展支援

- ・未来竹房修了展「赤・白・青」展一日時:平成26年3月20日～3月30日、場所:別府市竹細工伝統産業会館、竹製品出品数:16製品、36点、来場者数:約812名
- ※1)の「6人の竹しごと。」展と併催

4 課題及び今後の取組

課題

- ・竹材利用に関わる人材育成や意識啓発が急務である。
- ・竹材を加工する作業場や加工機械がない。
- ・新たな竹材利用や商品開発、需要開拓が課題である。
- ・竹材の有用性がじゅうぶん理解されていない。

今後の取組

- ・下記を通じて竹材や竹工芸等への関心を高めると共に、竹材・竹製品の消費拡大を図り、荒廃竹林の整備に繋げる。
- 1)「貸し工房」による竹材利用促進
 - －引き続き貸し工房を実施し、竹材の利用促進や竹工芸職人の自立を支援する。
- 2)竹文化アートコンペティションの開催(新規)
 - －竹材による巨大アートのデザインを全国公募し、優秀作品を制作、展示することで、竹と芸術文化の一体的なPRを行う。

5 実施状況写真



竹林実習



未来竹房修了展



竹材活用提案

Ⅱ－３ 竹工芸海外販路開拓事業

事業費 3,800千円

【商業・サービス業振興課】

1 実施主体

- ・ 一般社団法人 大分県竹産業文化振興連合会
- ・ アート／デザインプロジェクトアドバイザー 米山 佳子

2 実施事業の概要

(1) 目的

国内の竹材需要の減少や安価な竹製品の輸入により、衰退の一途をたどる大分の竹産業界に活力を与え再興を図るため、(一社)大分県竹産業文化振興連合会及び県内外の関係機関が協働し、米国における販路開拓とブランディング化を促進するとともに、輸出の拡大並びに国内における大分の竹製品の需要回復を目指す。

(2) 事業内容

- ① 米国市場に適合する新製品（プロダクト品）の開発 （事業費：1,600 千円）
米国民の嗜好にマッチし、中国等の安価な製品と差別化した高品質かつ多くの地元生産者が製造できる「プロダクト品」を開発する。
(委託先：アート／デザインプロジェクトアドバイザー 米山 佳子)
- ② 米国における竹工芸品企画展の開催補助 （事業費：2,000 千円）
(一社)大分県竹産業文化振興連合会が実施する、米国での竹工芸品企画展の開催を支援し、大分の竹工芸の認知度向上並びにブランディング化を図り、米国にマーケットインするとともに生産者の所得向上を図る。

3 成果

(1) 米国での取組状況について

- ① タイギャラリー展覧会 (H25 年 8 月 30 日～9 月 21 日、ニューメキシコ州)
 - ・ 県内竹工芸家等の作品展示・販売
 - ・ 新商品の展示販売
- ② ボストン美術館 竹の展覧会 (H25 年 11 月 12 日～平成 26 年 7 月末)
 - ・ 県内竹工芸家等の作品展示

(2) 新商品の販売実績等について

① 新商品開発数

7 アイテム 14 種類 (バングル、イヤリング、ペンダント、ネックレス、リング、バッグ、ポーチ)

②主な販売先

- 国外 ・ Paul Smith（ロンドンの旗艦店）
 - ・ ニューヨーク近代美術館 MoMA デザインストア
 - ・ 伊勢丹（NY の期間限定ブランドショップ NIPPONISTA）
- 国内 ・ GALERIE VIE（ギャルリー・ヴィー）
 - ・ LIVING MOTIF（リビング・モティーフ）

4 課題及び今後の取組

今後は、（一社）大分県竹産業文化振興連合会が単独で継続的取引を実施できる仕組み作りを研究する。

平成26年度は、新たなプロダクト品の開発、米国での竹工芸企画展の開催を計画している。併せて、各取引先との商談、欧米でのパブリシティについても取り組みを行うこととしている。

5 実施状況写真

①新商品開発



ネックレス



ピアス

②展覧会



③竹工芸実演



Ⅱ－４ 竹産業振興対策事業

事業費 100千円

【林産振興室】

1 実施主体

一般社団法人 竹産業文化振興連合会

2 実施事業の概要

(1) 目的

竹材の新用途開発や消費者への普及・啓発活動を通して、竹材需要の開拓を行うとともに、新たな後継者の育成を行う。

(2) 事業内容

大分県竹産業文化振興連合会が実施する活動費に対し補助を行う。

総事業費の1／2補助

3 成果

① 竹の新用途開発、流通対策

・第54回竹の大会(研修会及び市場調査)に参加し、他地域の流通や先進的取り組みを視察し、今後の新用途開発や普及啓発活動のための情報収集を行った。

② 県民への情報発信、普及・啓発活動

・大分県農林水産祭において、竹とんぼ教室及び竹馬教室を開催し、幅広い年齢層を対象にした普及啓発活動に取り組み、広く県民に情報発信をした。

・くらしの中の竹工芸展を開催し、若い工芸者の技術向上や伝統工芸の保持に努めるとともに、竹製品のPRを行った。

4 課題及び今後の取組

竹材業者、竹林所有者の高齢化及び後継者不足対策として、竹林研修(伐竹等)を開催し、後継者の育成を強化し、後継者確保に努める。

5 実施状況写真



農林祭 竹とんぼ教室



くらしの中の竹工芸展及び表彰式

Ⅱ－５ 国産広葉樹資源利活用促進事業

事業費 5,079千円

【林産振興室】

1 実施主体

(有)寺嶋林産、(株)アサヒコーポレーション
(有)上野石産工業、宇佐地区森林組合

2 実施事業の概要

(1) 目的

管理の行き届いていない高齢級の広葉樹林の有効活用並びに保残木施業（皆伐を行わずに、立木を2割程度残して伐採する方法）による里山林の再生を図るため、広葉樹林の伐採と材の活用を支援するとともに、次世代の森林づくりを意識した施業の普及を図ることが目的である。

(2) 事業内容

保残木施業に取り組み、材の有効利用を図った実施主体に対し助成（242千円/ha以内）を行った。

3 成果

県内4箇所（佐伯市、豊後大野市、玖珠町、宇佐市）で事業を実施し、作業を行った面積は、合計21.5ha（計画20.0ha）である。

また、上記の場所から搬出された原木の量は、合計1,247m³になり、製紙用のパルプ材やしいたけ菌床用の原木等として有効利用した。

4 課題及び今後の取組

事業の実施箇所を増やすと共に、里山林の資源の利活用を推進する。

5 実施状況写真



事業実施前



事業実施前



事業実施後



事業実施後

Ⅱ－6 森林経営集約化促進事業

事業費 480千円

【林産振興室】

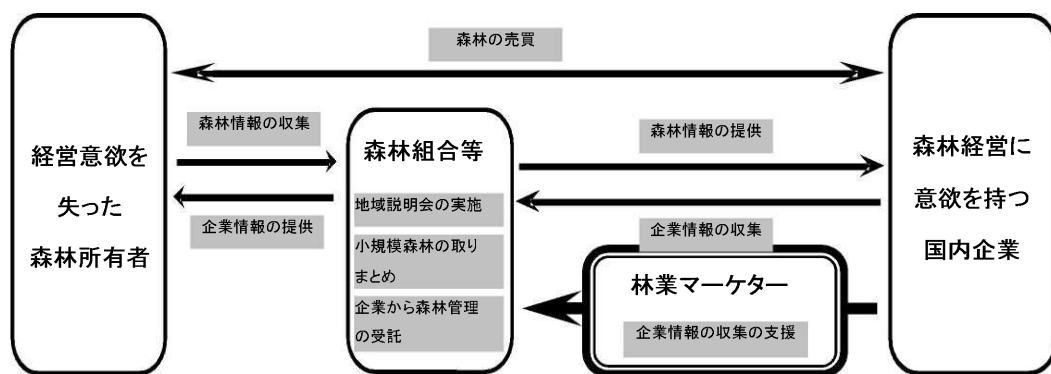
1 実施主体

佐伯広域森林組合

2 実施事業の概要

不在村森林所有者及び後継者不在森林の増加などにより、森林管理への意欲減退が進み、放棄される森林が増えている。一方で、成熟する国内資源に魅力を感じ、森林経営へ意欲を示す国内の林業・木材産業関連企業が増加傾向にある。

これらをマッチングするために、条件整備のための調査や交渉にかかる経費を助成し、地域の産業と環境を維持発展させるための体制構築を図った。



3 成果

2カ所、約385haの森林を、製材企業へ売却する契約が成立した。

当該森林は森林として永続的な利用に向けて保安林指定の手続きを進めているほか、必要となる施業や再造林など、周辺環境に配慮し、森林経営に必要な計画樹立に向けて、関係者で協議を進めている。

4 課題及び今後の取組

今後とも意欲ある森林経営者により、地域の森林が維持管理されるよう関係者と取り組む。

5 実施状況写真



※写真はイメージです

Ⅱ－７ スギ丸太等海外輸出促進事業

事業費 8,769千円
【林産振興室】

1 実施主体

大分県スギ丸太等海外輸出促進協議会、株式会社アルパック・ジャパン

2 実施事業の概要

県内の森林整備の推進と原木価格の底上げを図るため、スギ丸太等の海外販路開拓・需要拡大に取り組んだ。

3 成果

輸出数量17,402m3 （輸出先：中国15,124m3、韓国366m3、台湾1,912m3）

- ①輸出を通じ、県内の原木市場や素材生産業者と連携が図れ、スギ低質材丸太の新たな販路開拓と需要拡大に繋がった。
- ②海外からの旺盛な需要に応えるため、輸出量を増加させることができた。
その結果、原木価格の底上げの一つの要因となった。

(輸出数量)

年 度	H24	H25
実績(m3)	7,579	17,402

4 課題及び今後の取組

更なる海外販路の開拓・需要拡大を目指し、木材の大消費国である中国向けの輸出を更に推進する必要がある。また、現在輸出をおこなっている大分港・佐伯港に加えて、中津港からの輸出についても推進する。

5 実施状況写真



在来船への積み込み状況



在来船への積み込み状況



在来船への積み込み状況



積み込み予定のスギ原木

Ⅱ－８ スギ丸太等内航貨物輸送トライアル事業

事業費 3,594千円
【林産振興室】

1 実施主体

日新林業(株)、伊万里木材市場(株)

2 実施事業の概要

原木価格の底上げによる林業所得の向上を図るため、県外大手需要先への船舶による安定・大量供給に向けた試験輸送に取り組んだ。

3 成果

輸送数量10,804m³ （中津港7,113m³、佐伯港3,691m³）

- ①船舶を活用した輸送を行うことで、原木の安定・大量供給が図られ、原木の新たな販路開拓に繋がった。
- ②これまで原木が取り扱われていなかった、中津港を活用することで地域経済の活性化が図ることができた。
- ③H26年度以降も、民間ベースで取引が継続されており、8月迄に約7,600m³もの原木が輸送されている。
- ④取引の恒常化により、荷役単価が下がり、中津港の利便性が向上した。

船舶を活用した輸送数量（内航）

年 度	H25	H26（予定）
実績（m ³ ）	10,804	11,000

4 課題及び今後の取組

新たな販路開拓や、木材の搬出・荷役コストの削減に取り組み、更なる内航輸送の拡大を目指す。

5 実施状況写真



港土場の状況



船舶への積込状況



船舶への積込状況



船舶への積込状況

Ⅱ－９ 地域材活用住宅建設促進事業

事業費 1,949千円
【林産振興室】

1 実施主体

工務店

2 実施事業の概要

(1) 目的

スギ乾燥材の梁桁等への利用および普及宣伝活動による、地域材の需要拡大（地域材使用住宅の高品質化および地域材利用の普及）。

(2) 事業内容

地域材もしくは県産材を多く利用している工務店が梁桁等に高品質スギ乾燥材を利用し、その普及宣伝活動に取り組む場合、材料費の一部を補助するもの。

梁桁等における高品質スギ乾燥材使用量（ m^3 ） $\times 15,000\text{円}/\text{m}^3$
（上限：100,000円）

3 成果

今年度は工務店5店26戸に対して補助を行った（木材使用量141 m^3 ）。

昨年度に比べて取り組む工務店が2店、実施棟数が6戸増加した。

これにより、工務店がより高品質なスギ乾燥材の利用することになり、地域材の需要拡大に取り組むことができた。

4 課題及び今後の取組

地域材を使用する工務店の絶対数を増やし、さらなる地域材の需要拡大を図る。

5 実施状況写真



高品質スギ乾燥材【梁・桁】



高品質スギ乾燥材【梁・桁】



高品質スギ乾燥材【梁・桁】



高品質スギ乾燥材【梁・桁】

Ⅱ－10 次世代林業の森林づくり推進事業

事業費2,458千円

【林務管理課】

1 実施主体

大 分 県

2 実施事業の概要

(1) 目的

本県の森林が将来にわたって木材生産や公益的機能を持続的に発揮できるように、今後の目指す森林の姿を明らかにし、その実現に向けた誘導方針、施業方法等を具体的に明示する。

(2) 事業内容

外部有識者等による「次世代林業の森林づくり検討委員会」を開催し、現地調査等を行い新たに6箇所のモデル林を選定するとともに、「次世代の大分森林づくりビジョン推進会議」を設置し「次世代の大分森林づくりビジョン」を推進するための具体的な施策等を検討した。

3 成果

「次世代の大分森林づくりビジョン」の策定とモデル林が設定されたことにより、将来の大分県の森林づくりの目指す姿が具体的に示された。また、低コスト作業や環境に配慮した里山林の整備方法等も具体的に示され、林業関係者への新たな取り組みの指針となった。

4 課題及び今後の取組

今後は、策定された指針を普及し、実行に移すための施策を検討するとともに、具体的な生産林候補地を明示するなど、より実現性の高い指針とする必要がある。また、モデル林の状況を定期的にホームページ等で公表するなど、次世代の森林づくりの事例として活用する。

5 実施状況写真

○目指す森林のイメージ



モデル林 武蔵町
育成天然林型(クヌギの循環林)

(次世代の大分森林づくりビジョンより)